

令和 5 年度 県立麻生高等学校自己評価表

目指す学校像	確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と常に変化する社会に対応できる能力と創造力を養うとともに、生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程により、国公立大学進学、公務員内定などを目標に捉えた進路希望の実現を目指す。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	意欲を持って学習や学校生活に取り組み、主体性や社会性を身に付け、社会のリーダーとして貢献できる人材の育成 ・至誠勤勉：何事にも誠実に一生懸命取り組むことができる ・自治剛健：強い心を持ち、物事を自らの意志により実行することができる ・和衷協同：目標達成のために、仲間を認め協力し合うことができる	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程により、国公立大学進学、公務員内定などを目標に据えた進路希望の実現。 ・ICT 教育を積極的に推進し、学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりの確かな学力を育む。 ・キャリア教育の推進と情報モラル教育の充実を図り、時代の変化に対応できる能力を育成する。 ・健康と安全に留意し、強健な体と不屈の精神を育てるとともに豊かな人間性を培う。 ・地域とともにある学校として、行政や小・中学校と連携し、特色ある学校づくりを推進する。 ・学校教育活動全体の業務を精査し、教職員自らが適正な時間内で働くことのできる環境作りに努める。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自らの学習活動ばかりではなく、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>昨年度の生徒による学校評価アンケート（5段階）「学習指導」項目によると、学校全体で高い評価が見られる。【授業の内容や進み具合は適切である】（R4 平均 3.7）、【生徒が主体的に考える時間が設けられている】（R4 平均 3.8）。保護者による学校評価アンケート（5段階）【授業は分かりやすい】の項目では平均値が 3.4 となっている。ICT を効果的に活用しながら、教科内で継続的に授業改善を模索し、授業展開や教材開発など点検を行いつつ、教科性を生かし、情報共有しながら授業改善につなげる。</p> <p>・進学率 83.1%(大学 34.9%、短大 7.2%、専修 41.0%)で、専修学校進学者の割合が増加した。コロナ禍による学校生活への物足りなさや不安が進学への意識を高める一因となっている。私立大総合型選抜合格者が 12 名(昨年 15</p>	I ICT 教育を積極的に推進し、学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりの確かな学力を育む。	<p>① 授業交換の徹底及び終始時刻の厳守により、授業時間の確保と適切な指導の強化を図る。</p> <p>② 日々の授業の他、ブライタimeや補習等を通して基礎的・基本的な知識や技能の習得に努めるとともに、これからの時代に求められる読解力や思考力・判断力・表現力を養い、確かな学力の定着を図る。</p> <p>③ 生徒一人ひとりの能力・適性・進路希望等に対応して、個に応じた指導の充実を図ることで、分かる授業を実践し、学習意欲の向上に努める。</p> <p>④ 家庭学習の習慣化を図るために、週末課題等を通して各教科で連携し、学習指導の工夫・改善に努める。</p> <p>⑤ 生徒の確かな学力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を推進するとともに、教科内で授業参観を積極的に行うなど、授業の質の向上を図る。生徒による授業評価において、授業満足度の平均値 3.6 以上をめざす。</p>	A
	II キャリア教育の推進と情報モラル教育の充実を図り、時代の変化に対応できる能力を育成する。	① 早期から自分の能力・適性や進路について考え、進路を主体的に選択する能力を育成する。	B

別紙様式 2 (高)

<p>名)、指定校・公募推薦 39 名 (昨年 54 名)、一般での合格総数が国公立も含めて 18 名(昨年は 46 名)である。昨年とは在籍数が大きく異なるため人数は減少しているが、共通テスト利用などさまざまな入試方向を活用し、国公立後期試験等、最後まであきらめずに第一志望を複数回受験する傾向は続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短大・専修学校希望者は全員が合格し、概ね希望する進学先を実現することができた。専修学校は 37%が総合型選抜で進学し、志望決定の早期化が年々進んでいる。 就職希望者は 13.3% (昨年 16.3%) と引き続き減少したが、企業 21 名、公務員 1 名が内定し、内定率 100%を達成できた。求人状況は好転しているが、めまぐるしい変化と生徒の進路希望に適切に対応した指導を行っていく必要がある。 進学就職を問わず、基礎学力の定着と適切な読解力や表現力の涵養を図る必要がある。 共通テストをはじめ、新教育課程対応入試に関するさまざまな変更点への校内での対応を適切に進める。 生徒の進路意識・自己実現への高い意欲を喚起するため、進路指導部と各学年で協力して計画的に手立てを実践し、早期に進路目標を確立できるように指導を行う。 生徒の規範意識が高く、学校全体に学ぶ場としてふさわしい落ち着いた雰囲気形成され、安心安全な学校が確立している。しかし、校外において自律心に欠ける行動が時折見られる。 教室環境の整備が不十分である。 交通ルール及び交通マナーの遵守に不徹底が見られ、登下校時に事故が発生している。 保護された状況からの自立を促すこと。 保護者や地域と連や携を密にし、校外での指 		<ul style="list-style-type: none"> ② 実践的・体験的な活動やキャリアカウンセリングを通して、望ましい勤労観・職業観を養う。 ③ 生徒一人ひとりの進路希望に応じた個別指導を充実させ、生徒の自己実現を図る。 ④ 教科指導に ICT を活用し、学習に対する興味・関心・理解を促す。 ⑤ 情報モラル教育を推進し、情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度を育成する。 ⑥ ホームルームや生徒会活動及び社会的活動を通して、人間としてのあり方生き方に関する教育を推進するとともに、生徒一人一人が自らの変容や成長を自己評価できるよう「キャリア・パスポート」を促進する。 ⑦ 広い視野から郷土・国家、国際社会を理解する教育を推進し、グローバルな視野を持ち、地域に貢献する意欲を持った人材（グローバル人材）の育成を図る。 	
	<p>Ⅲ 健康と安全に留意し、強健な体と不屈の精神を育てるとともに豊かな人間性を培う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校教育活動全体を通して体育・スポーツ活動を充実することで体力の向上を図るとともに、変化の激しい時代を生き抜くために必要な強い精神力を涵養する。 ② 学校教育活動の一環として望ましい部活動の充実に努め、生徒の基礎体力を錬成する。 ③ 学校保健教育を充実し、健康の保持増進のための自己管理能力を育てる。 ④ 全職員の共通理解と協力の下、家庭、関係機関、諸団体との連携を密にして、生徒一人ひとりをよく理解し、個々に応じた生徒指導の充実を図る。 ⑤ 指導が必要と認められる状況においても、決して体罰（暴言も含む）によることなく、生徒の規範意識や社会性の育成を図るよう、適切に指導する。 ⑥ 全ての生徒がいじめを行わず、また、いじめを認識しながらこれを放置することがないよう、いじめの防止のための対策を講じ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を心掛ける。 ⑦ 情操を高める学習環境を目指し、清掃の徹底と美化に努める。 ⑧ 学校環境の安全点検を強化するとともに、安全教育を実施し、事故の未然防止に努める。特に、スクールバスによる通学の利便性を図るとともに、交通安全の指導を充実して交通事故の撲滅を目指す。 	<p>A</p>
<ul style="list-style-type: none"> IV 地域とともにある学校として、行政や小・中学校と連携し、特色ある学校づくりを推進する。 		<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の人的・物的資源を活用し、家庭・地域と協働した特色ある学校づくりを推進する。 ② 地域の小中学校との連携と協働を進め、地域の小・中学生から選ば 	<p>B</p>

別紙様式 2 (高)

<p>導体制をいかにして確立すべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示の工夫や放課後の教室の整理整頓等、教室内の整備を徹底すること。 ・ LHR、SHR 及び学年集会等において、交通事故未然防止のための交通安全指導を行う。 ・ 昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため規模縮小となった学校行事もあったが、生徒会を中心に意欲的に学校行事に取り組む姿勢は見られる。 ・ 感染症対策を徹底しながら活発な部活動が行われており、生徒の身体的精神的成長につながっている。 ・ 新型コロナウイルス感染症によりボランティア活動等に参加する機会がほとんど無かった。 ・ 生徒の成長や自己実現につながるよう「キャリア・パスポート」への取り組みを充実させる必要がある。 ・ ボランティア活動等、社会的な活動への積極的な参加を促進する。 ・ 生徒による自発的、自主的な取り組みを促進する。 ・ 活発な部活指導、スクールバスの運行時間に時間を取られる傾向がある。1月45時間を超過しての勤務が6月以上の教職員が8名おり、管理職との面談を通して、時間外勤務の改善を図っている。 ・ 職員室等の整理整頓を推進し、働きやすく効率の良い職場環境の構築を進めている。 		<p>れる学校づくりに努める。</p> <p>③ 教育活動を積極的に情報発信し、地域から評価される学校づくりに努める。</p>			
<p>V 学校教育活動全体の業務を精査し、教職員自らが適正な時間内で働くことのできる環境作りに努める。</p>		<p>① 学校行事や部活動、学校運営等の見直しを図り、適正な時間内での業務運営に努める。</p> <p>② 勤怠管理システムによる勤務時間の管理を図り、超過勤務時間の削減に努める。</p> <p>③ 職員室等の整理整頓を推進し、働きやすく効率の良い職場環境づくりをする。</p>	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	国語	基礎学力の向上	漢字・語彙などの学習の基礎基本となる内容について、小テストを実施する。 I ②③	A	週末課題、小テストを通して家庭学習の習慣を定着させることができたので、次年度は漢検を活用した語彙力の向上、主体的に学ぶ姿勢を育むことを目指したい。
	家庭学習の充実と習慣化	課題を提示し、家庭学習の習慣を定着させる。(提出率90%以上) 定期考査や模試結果を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を支援する。 I ①②③④	A		
	希望進路実現に向けた国語力の伸長	授業・定期考査・各種模試結果を分析し、指導方法を研究する。授業・課外・課題(自学)により生徒の総合的な学力と論理的思考力、表現力の向上を図る。 I ②③④⑤ II ④	A		

別紙様式 2 (高)

地歴・公民	基礎知識の習得と思考力の研磨	ICT 教育を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を推進し、基本的な知識の習得とその基盤の上に立つ思考力を育てる。 I ⑤	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育への理解を高めるために、教科内外での研修を実施する。 ・新課程科目について研究し、共有して指導に生かす。
		課題を提供するなど、家庭学習の充実をはかるような工夫を行う。 I ④	A		
	生徒の自己実現のための支援	進学希望者をはじめ、あらゆる進路希望に対応できるよう、課外授業等の個に応じた指導の充実をはかる。 I ③	B		
		租税教室などを通じて、社会の仕組みを理解させ、また実社会でも応用できる知識習を習得させる。 II ②	A		
数学	基礎学力の向上	教科書・問題集の基本問題を繰り返し解くことによって、基礎学力・基本的な知識や技能の確実な定着を図る。 I ①③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等での ICT の効果的な活用を図る。 ・知的好奇心が芽生えるような授業を展開することで自主学習の習慣化を促す。
	論理的に思考・判断・表現する力の育成	授業で ICT を活用するなどして主体的・対話的な学習活動を行うことで、従来の授業形態の改善を図り、教科書・問題集の応用問題を解いたりすることによって、論理的に考え、グループ活動を通して、理由を付けて説明することができる能力を育成する。 I ② II ④	B		
	自主学習の習慣化	週末課題を課すことによって、自主的な学習の習慣化を図る。 I ②④	B		
理科	基礎学力の向上	生徒の実態に合わせて、中学校の既習事項を踏まえつつ指導にあたる。また問題演習、学習課題を繰り返し行うことにより、基本的な学力の定着をはかる。 I ①②④	A	B	タブレットを使った授業の継続と実験・実習で ICT 機器を活用する授業展開の検討
	生きる力を支える確かな学力の育成	実験・観察により技能を習得させながら、事象を実証的・論理的に考え、事実に基づいて判断し、表現する力を培う。 I ②③⑤	B		
		ICT を積極的に利用し、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒の能動的な学習をサポートする。 I ②③⑤	B		
	自然の事物・現象を科学的に探究する資質能力の育成	生徒自身が調べるテーマを選択し、理科で学んだ科学現象を用いながらそれらの現象・事象が起こる理由を考える。 I ②③④ III ⑧	B		
保健体育	運動技能を高めて生涯にわたり運動に親しむ資質や能力の育成	球技：基本技能を身に付け、自他協力により安全にゲームが展開できるようにさせる。 I ②	B	B	体力テストの数値が例年に比べてかなり低かった。ICT や生徒同士の関わり合いを充実させ、生徒が主体的に運動に取り組むような授業を展開していきたい。
		集団行動：公正・協力・責任の態度を育てる。 I ⑤	A		
		選択授業の展開：多様なスポーツとの関わりからそれぞれの生涯スポーツを獲得する。 I ③	B		
	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成	日常生活から健康問題を考える意識を持たせる。 III ③	A		
健康的な生活習慣を身につけ、生活環境を守るための知識と能力を高める。 I ②		B			
芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い活動を通し、芸術文化をより深く理解し、愛好する心情を育てる。 I ②③⑤ II ④	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動の充実 ・Wi-Fi 環境の整備
	芸術の諸能力の伸長及び豊かな情操の養成	多くの作品に触れ感性を磨き、自らの意図に基づいて表現できるような指導に努める。 I ②③⑤ II ④	B		
		ICT 機器を効率的に使い、分かりやすい授業の徹底と生徒の技術の向上を図る。 I ②③ II ③	B		

別紙様式 2 (高)

外国語	基礎学力の向上と家庭学習の習慣化	小テスト等を利用して生徒の理解度を把握し、不十分な生徒を個別指導する。 I ②③	B	A	・ICT の活用の幅をさらに広げる。 ・授業計画等の共有化 ・ALT の活用の促進		
		予習復習や定期的な課題等を課して、家庭学習を定着させる。 I ③④	B				
		ALT とのティームティーチングの授業を通してコミュニケーション活動の充実を図る I ⑤	A				
		意欲・関心を高め、豊かな人間性を培えるような教材を精選する。 I ②③	A				
	授業の創意工夫	授業内容・教授法・提出物管理等について ICT 機器の使用法を共有し活用していく。 I ⑤ II ④	A				
		家庭	基本的な生活力の向上		ICT 機器を効果的に活用し生徒の実態に応じた教材を取り入れることによって、基礎的・基本的な知識・技能の習得をはかる。 I ② II ④	A	A
	課題解決能力の育成	日常生活の充実向上について考え、課題を見だし、改善・解決を目指す態度を育成する。 I ⑤	A				
	学習環境の整備と事故防止の推進	実験実習時の衛生・安全に配慮させる。実習室の整備・安全管理に努めて事故防止をはかる。 II ②	A				
	情報	PC 技能の向上	文書作成および表計算処理の技能の向上に努める。また P スタディを活用することによって授業改善を図り、Python によるプログラミング技術の取得を目指す。 I ④ II ④		B	B	・Python によるプログラミング学習の充実。 ・共通テストに対応できる学力の定着
		コミュニケーション能力の向上	プレゼンテーションを行い、情報伝達能力の向上に努める。 I ⑤ IV ③		B		
		情報モラルの理解と実践	著作権の尊重・情報発信者の責任など、守るべき規則及びその背景について生徒に考えさせ、情報モラルの理解と実践を図る。 II ⑤⑦		A		
	教務	授業時間の確保	授業開始、終了時刻を厳守する。 I ①		A	B	・観点別評価の検証と完成 ・ICT 機器を用いた授業の研究と実践 ・継続的な図書室利用の広報活動 ・ICT 支援員との連携を図り、ICT 関係の充実した環境づくり ・学校 HP の充実 ・先進校視察 (授業改善、ICT)
授業交換は単独授業では 100% 実施し、同時展開の授業でも出来るだけ実施する。 I ①			B				
カリキュラムマネジメントに基づく教育課程の編成・実践		現教育課程が生徒の実態に適しているか検討する。 I ②⑤ II ⑦	A				
		教科のグランドデザインに即した資質・能力の育成を図る。 I ②③④⑤ II ④	B				
指導方法の研究・改善		新たな観点別評価の徹底を図る。 I ②⑤	B				
		生徒が主体的・対話的に学ぶ授業の指導方法について研究し、授業改善に努める。 I ⑤	B				
図書室の利用と読書指導の推進		授業参観・職員研修の実施や ICT・グループワークの導入による授業の質の向上を図る。 I ⑤ II ④	B				
		広報活動を行い、図書室の利用促進および一人一人の読書量の増大に繋げる。 II ①⑦	A				
情報及び情報機器の管理		所有するハードウェア・ソフトウェア、およびデータの管理に加え、USB と PC 本体等の管理 (帰宅時) を厳に行う。 II ④⑤ V ③	B				
		ICT 係を中心として、ICT 支援員と連携し、授業や業務の改善を図る。 I ⑤ II ④ V ①	B				
広報活動の充実	ホームページを充実させ、本校の教育活動を積極的に広報する。 V ③	B					
生徒指導	基本的生活習慣の確立	おはよう運動 (登校指導) を通じて、挨拶の励行を図るとともに遅刻防止に努める。 III ①	A	A	・生徒の落ち着いた生活態度の継続を図る。 ・生徒のマナー、エチケット等の指導を継続し、身だしな		
		全職員がチャイムで始まりチャイムで終わる授業を実践することで、生徒の時間厳守の行動を養う。 I ①	A				
	生徒理解	学校生活全般において生徒一人ひとりをよく理解し、適切な信頼関係を築く。適宜、個人	A				

別紙様式 2 (高)

		面談・教育相談等を行う。 III⑦			みの徹底を図る。 ・より元気な挨拶の実施に向けた支援に努める。
	体罰によらない指導の徹底	指導が必要な状況においても、決して体罰によることなく、適切に指導する。 III②	A		
	服装頭髪指導の徹底	全職員の共通理解の下、おはよう運動及び毎月服装頭髪指導を実施する。 III①	A		
	規範意識の高揚	全校集会・学年集会・LHR・授業等を活用し、社会規範意識の高揚に努める。 III⑧	A		
	いじめを許さない学校づくりの推進	休み時間や昼休みに教室巡回を行うなどして、生徒観察に努め、いじめの未然防止に努める。 III③	B		
	交通安全教育の徹底	校外での交通指導を隔月 1 回実施するとともに、交通講話・バイク通学許可説明会・教習所入所説明会・バイク実技講習会等を通じて、交通法規の遵守及び交通安全の意識の高揚を図る。 IV⑤	A		
		交通法規の遵守について、全校集会・学年集会・LHRを活用し、継続的な指導を行う。 IV⑤	B		
	教室環境整備の徹底	掲示の工夫や放課後の教室の整理整頓、学ぶ場としてふさわしい教室環境の整備を徹底する。 IV④	B		
進路指導	進学指導体制の充実	生徒一人一人、個に応じた進路指導・進路実現の支援体制の充実を図り、国公立大学 10 名、私立大学 100 名、就職希望者全員の合格・内定を目指す。 II②③	B	A	・探究活動等を通して地域の方々や卒業生など、外部の方々との交流を積極的に持ち、情報発信に努めることで、各々の進路について多面的な視点を持てるようにする。 ・進路実現に向けて、各学年との情報共有を密に行い、早期からの意識付けと目標確立を図る。 ・進路研究や模擬試験等において、ICT機器を活用した進路指導を行う。
	課外指導等の充実	進学希望者への平常課外や長期休業中の課外等に積極的に参加を促す。 I②③	A		
		平常課外、長期休業中の課外の充実を図り、授業と連動させることで学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。 II③	A		
	進路講演会等の実施と進路意識の高揚	進路講演会等を通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。 II②IV①	A		
		HR・総合的な探究の時間等を利用し、自己理解、職業・学部学科研究を行い、自己実現に向けた進路意識の高揚を図る。 II①②⑦	B		
	進路指導内容・環境の充実	教員全員体制での面接指導により、面接試験に柔軟に対応できるように多面的な視点からの指導を行う。 I③II③	A		
		進路希望に応じた校外模擬試験等を計画的に実施し、その結果を振り返りながら定期考査を含めて達成状況に応じた次の指導に活かす。 I②	A		
		茨城大学等の大学説明会や見学会に積極的に参加させ、志望校決定の一助とする。 II②	B		
		ICTの活用を通して、精選した最新の進路情報を提供し、進路実現に向けて適切に活用できるよう指導を行う。 II④⑤	B		
3 年にわたる系統的かつ具体的な進路指導計画を策定する。 II①②③		B			
進路閲覧室・実現室の環境整備を行い、効果的で利用度の高い進路指導環境を整備し、校内での教育活動を積極的に情報発信する。 II③IV③		A			
家庭・企業・大学との連携	出前授業、卒業生の講演会、ガイダンス等を実施し、進路情報の提供に努める。 II①IV①	A			
特別活動	社会性・人間性を高める活動への参加支援と「キャリア・パスポート」の推進	社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を促し、地域社会との交流を図る。 IV①	A	A	・行事や部活動での生徒の主體的な活動を促し、生徒の自治的活動の浸透を図る。
		生徒の成長と自己実現につながるよう「キャリア・パスポート」への取り組みを充実させる。 II⑥	A		

別紙様式 2 (高)

	人間的触れ合いを基盤とした自主的 自治的活動の推進	球技大会や文化祭を通して生徒同士の触れ合いを図る。 Ⅲ①	A		・年間計画表および活動記録簿を作成し委員会活動の活性化を促す。
		ホームルームや生徒会活動を通して、自主的・自治的活動の活性化を図る。 Ⅱ⑥	A		
	委員会活動の活性化	委員会活動を通して、健全な身体的精神的成長を図る。 Ⅱ⑥	B		
		生徒の自主的・自発的な委員会活動を支援する。 Ⅱ⑥	B		
	部活動の適正な運営および効率的・効果的な活動の推進	適切な休養を確保するための活動時間の管理を図る。 Ⅲ③	A		
生徒自らが活動計画をたてるなど、主体的活動の構築を目指す。 Ⅲ①②③		A			
保健安全	健康の把握と増進	性に関する講演会など、専門家による健康教育を実施する。 Ⅳ①	A	A	・新学期開始の早い時期のエンカウンター（人間関係づくり）の実施やSCによる教員研修など、教育相談のより一層の充実を目指す。 ・防災訓練等の実施により、適切な避難行動と防災意識の向上を図る。 ・校内美化の推進に努める。
		定期健康検診の全員実施に努める。 Ⅲ③	A		
	教育相談の充実	養護教諭・教育相談係・スクールカウンセラーを中心に、学年とも連携して相談活動を充実させる。全職員で配慮・支援が必要な生徒を共有し迅速かつ適切な対応を目指す。 Ⅲ④⑤⑥	A		
		スクールカウンセラーによる教職員研修を実施する。 Ⅲ④	A		
	安全教育の推進	防災訓練を実施し防災意識の高揚を図る。安全点検の実施で校内の危険予防を図る。 Ⅲ⑧	B		
		教職員向けAED講習会を実施し、緊急時に備える。 Ⅲ⑧	A		
	環境整備美化の推進	毎日の清掃指導の徹底やワックスがけの実施で校内美化に努める。 Ⅲ⑦	A		
清掃用具の点検・整備を定期的実施して、清掃活動の充実を図る。 Ⅲ⑦		B			
渉外	後援会活動の充実	役員と職員との連携を深め、総会などの事業について最善の形態を模索し、活性化を図れるよう努める。 Ⅲ①Ⅴ①③	B	B	後援会、同窓会等の各団体との連携を図り、生徒の活動の支援に活かす。
	保護者・地域との連携強化	保護者と職員とが参加する研修や行事等について最善の形態を模索し、良好な関係の形成に努める。 Ⅴ①	B		
	生徒の通学や学習環境の充実	後援会が運営するスクールバスや空調設備などについて、適正および円滑な活用に努める。 Ⅲ⑧Ⅳ①	A		
1 学年	目的意識を持った高校生活の確立	全生徒が部活動や課外授業へ積極的に参加する。 Ⅰ②Ⅳ②	B	A	・全体的に落ち着いた学校生活を送っており、部活動にも積極的に励んでいる。 ・課題等には取り組む一方で、指示待ちの傾向が強い。 ・主体的に学習に取り組む態度の涵養と進路目標の具体化を次年度は図る。
		高校生活で力をいれるものを見つけ、充実した高校生活を送る。 Ⅱ①③	A		
	基本的生活習慣の確立	規範意識を高め、身だしなみを整える。 Ⅲ④⑤	A		
		挨拶を励行し、時間の厳守に努め、清掃を徹底する。 Ⅲ⑦	A		
	進路目標の早期明確化	自己理解や職業理解を深め、具体的な進路目標を持てるようにする。 Ⅱ①②	B		
基礎学力の定着と進路を見据えた学習指導の充実	ICTを活用した課題を提示することにより家庭学習（120分以上）を充実させる。 Ⅰ④	A			
	英検・漢検・数検等の資格取得を推進するとともに、主体的、対話的な授業に取り組ませる。 Ⅰ②⑤	A			
2 学年	目的意識を持った高校生活の確立	部活動や課外授業、ボランティア活動への参加を奨励し、年間を通じて継続させる。 Ⅰ②Ⅱ⑦Ⅳ②	A	A	・修学旅行や文化祭等の大きな学校行事を無事終えることができた。
		学校行事等への積極的な参加を促す。 Ⅲ①	A		

別紙様式 2 (高)

	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行、時間の厳守、清掃の徹底を図る。Ⅱ⑦	A		・ボランティア活動等に積極的に参加したり、資格取得に積極的に取り組んだり、進路実現に向けて家庭学習の習慣が定着してきている生徒が少しずつ増えてきた。
		規範意識を高め、身だしなみを整える。Ⅲ④⑤	A		
	具体的な進路を見据えた学習	授業等でICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努め、学力向上を図る。Ⅰ①⑤Ⅱ④	A		
		週末課題やブライタイム、学習動画や課題の配信を積極的に行い、基礎学力と家庭学習習慣の定着を図る。Ⅰ②④	A		
		早期に、志望進路を明確にさせる。Ⅱ①③	B		
		英検・漢検等の資格取得を推進する。Ⅰ②⑤	A		
3 学年	幅広い学習ニーズに対応した希望進路実現の支援	個別面談を充実させ、個に応じた学習、生活、進路指導を図る。Ⅰ③Ⅱ①③⑥	A	B	生徒の学力や進路希望に応じたきめ細やかな進路指導を継続すること。特に面接指導においては、学年で早期から計画的に行った効果が見られたので、来年度以降も継続させたい。
		進路別各種説明会、公務員講座、看護ガイダンス等を活用し、具体的進路実現に対する意識の向上を図る。Ⅱ①②③	A		
	基礎学力の向上	模擬試験の活用その他、課外授業、ブライタイム、特別編成授業を充実させ、多様な入試形態に対応できる学力を育成する。Ⅰ②③④	B		
		公務員模試、就職模試、看護模試等の活用により、多様な進路に適応できる基礎学力の定着を図る。Ⅰ③Ⅱ①②	B		
	基本的な生活習慣の確立	服装容儀指導を中心に、進学、就職を見据えての規範やマナー意識の向上に努める。Ⅲ⑤	B		
		個別面談や被害調査等を活用し、各関係校務分掌と連携しながら、いじめや問題行動の未然防止に努める。Ⅲ④⑤⑥	B		

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できてない